

福利厚生・社宅制度の見直しを通じて 業務効率と生産性向上をサポート



株式会社タイセイ・ハウジー
代表取締役社長

赤間 敏雄氏

人材戦略の観点から福利厚生を見直す企業が増えている。短期的には、採用難が続く中での優秀な若手人材の確保。中長期的には、社員の定着率やモチベーションを高めるなどの効果がある。借上社宅の充実も経営テーマの1つになっている。

「新入社員が仕事を覚える大事な時期に、部屋探しの手間や数十万円の出費を強いるのは負担が大きいでしょう。また転勤者、女性社員にとっては、セキュリティや耐震性に優れた社宅が用意されていることで、業務に安心して集中できます」と、他社に先

アウトソース活用で経営資源を最適配置

採用難を背景に、社員への福利厚生が人材戦略の一環として見直されている。借上社宅の充実も大きなテーマで、顧客企業に代わって、物件のあっせんや契約・解約手続き、苦情処理などを一括して受託するアウトソーシングのニーズが高まっているのだ。社宅管理業務代行システム「アンサー（ANSWER）」を提供する総合不動産業のタイセイ・ハウジーは、業界のパイオニアとしてトップクラスの管理実績を誇る。

駆けて1995年から社宅管理業務のアウトソーシングを手がけるタイセイ・ハウジー社長の赤間敏雄氏は語る。

人的資源をコア業務に集中

現在は企業が社有社宅を手放す傾向にあるため、借上社宅ニーズが急増。借上社宅の契約や管理業務にはより複雑な専門性が求められ、管理戸数が多いほど人手とコストがかさむ。

タイセイ・ハウジーの社宅管理業務代行システム「アンサー」は、福利厚生の充実と経営資源の最適配置を実現するアウトソーシングシステムである。

企業は「アンサー」を活用することで、人材を収益性の高いコア業務へ集中的に振り分けられる。さらには最少

の人手とコストで、企業の持続的な競争力強化に欠かせない人材の生産性向上が可能になる。

「例えば、異動頻度が高いある流通業では、700戸の社宅管理に社員3人、パート2人の人員を割いていましたが、社員2人とパート1人分

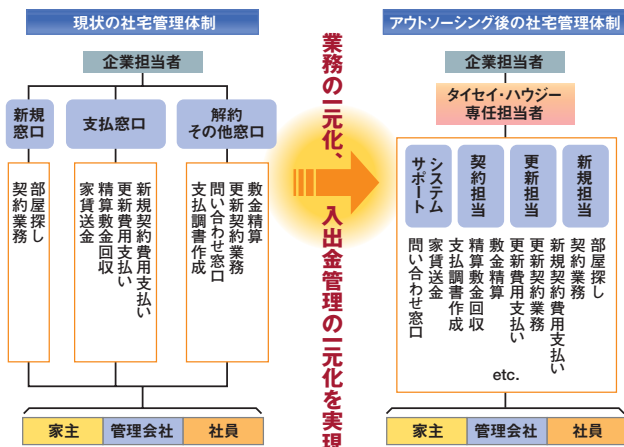
の業務量と人件費を削減できました」と赤間氏は導入後の具体的な成果を挙げる。

強みは全業種380社の実績

現在、受託社数380社、9万数千戸の管理戸数と、業界トップクラスの実績を誇る同社。強みは13年間、全業種にわたる380社から学んだノウハウと経験の蓄積、それを1社ごとに人材戦略も業務の流れも異なる顧客に還元する社内の仕組みだ。企業別に担当者を置き、導入前のコンサルティングやカスタマイズ、導入後も改善案を提案する。社内で蓄積されたノウハウと経験は、次の提案や他社へのアドバイスに反映される。

いわゆるJ-SOX法の施行で、求められるコンプライアンスや管理のレベルも上がる。赤間氏は「高精度のシステムを年内に完成させ、企業の人材戦略を今以上にサポートしたい」と語った。

社宅管理業務代行システム「アンサー」導入のメリット



お問い合わせ先

株式会社 タイセイ・ハウジー

法人営業部

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-32-10
南新宿SKビル
TEL 03-5269-8161 FAX 03-3350-6676
メールアドレス syataku@taisei-hs.co.jp